

松東遺跡 発掘調査通信 VOL.01

浜松市 文化財課 2012.9.3

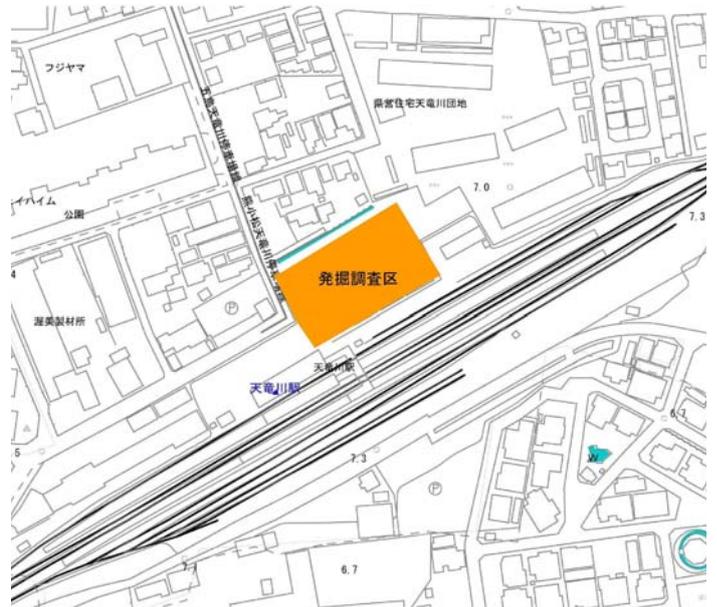
松東遺跡の発掘調査を実施しています

8月よりJR天竜川駅の北側で、松東遺跡の発掘調査が本格的にはじまりました。

遺跡の発掘作業は、原則として平日の午前8時30分～午後4時30分に実施していません（雨天時等は作業を休止します）。

なお、駅前の駐輪場を確保するため、調査区域を3つに分けて、今年度末までに順次調査を行なっています。

地域のみなさま、駅をご利用のみなさまには、ご不便をおかけすることもあるかと思いますが、ご理解・ご協力をよろしくお願い致します。



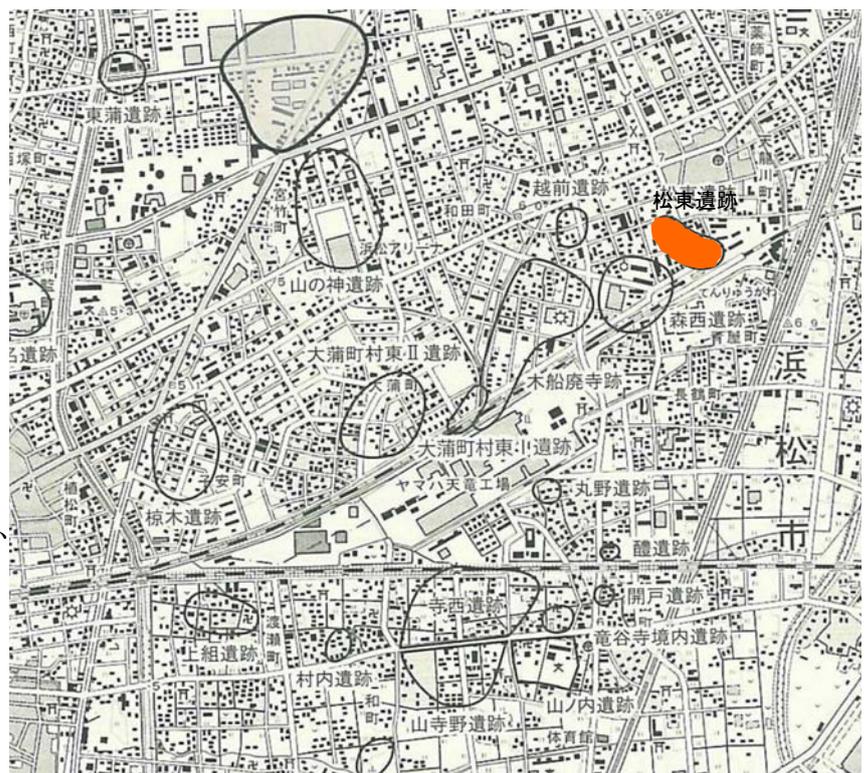
松東遺跡ってどんな遺跡？

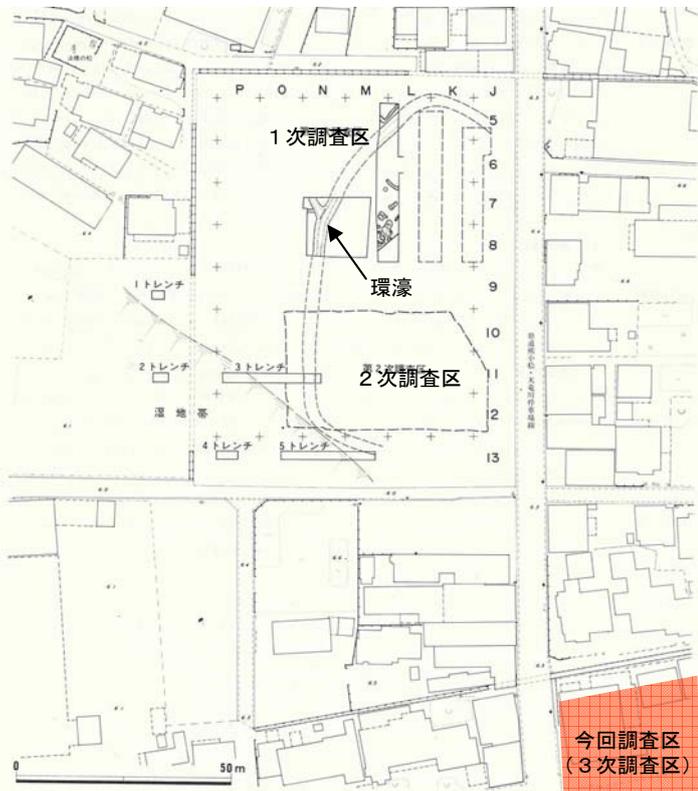
天竜川は、現在のような強固な堤防が築かれる前までは、時代によって流れを変えながら支流が細かく分かれており、その川の流れによって、平野部には島状の微高地と低地が形成されています。松東遺跡は、そうした微高地上に存在する遺跡で、弥生時代を主とした遺構・遺物が発見されています。過去に2度の調査がおこなわれていて、今回は3次調査になります。

【弥生時代の松東遺跡とその周辺】

弥生時代には後期（およそ1900年前）の環濠集落（周囲に濠をめぐる集落）の跡がみつかります。また周辺の遺跡でも弥生時代後期の集落跡が多くみつかります。

当時の人々は平野部の微高地に住み、低湿地に水田をつくって生活していたと考えられています。また、当時非常に貴重な物であった銅鐸や、銅鐸を象ったものが、松東遺跡や木船遺跡、森西遺跡で出土していることから、この周辺は遠江でも主要な地域だったと考えられます。





1次・2次調査全体図



環濠（1次調査）



銅鐸飾耳破片
(2次調査出土)

銅鐸の各部の名称



【奈良時代の松東遺跡とその周辺】

松東遺跡では、奈良時代（今からおよそ1300年前）の遺構・遺物は、あまり多くみつかっていませんが、周辺の森西遺跡や木船遺跡、大蒲町村東・遺跡などでみつかった遺構・遺物の特徴からは、一帯に古代の役所の施設があったと考えられています。

松東遺跡でも、今後そうした施設の一部が見つかる可能性があります。



右) 木簡（大蒲町村東遺跡出土）
左) 古代瓦（木船廃寺跡出土）

今後の予定

これから10月上旬頃にかけて、まずは調査区の北西部（第1工区）を調査していきます。また、現地説明会を9月15日（土）の10:00と13:30の2回開催します。申込不要ですので、ぜひご来場ください。なお、駐車場がありませんので公共交通機関等でお越しください。

みなさまへのお願い

現場は危険な箇所がありますので、申し訳ありませんが無断で調査区内に立入らないようお願いいたします。なお、発掘調査に関するご意見・ご要望などございましたら、下記連絡先までお願いいたします。